

## イ 老朽管（石綿セメント管等）・老朽施設の更新

昭和30年代から50年代に創設・拡張された事業者が送・配水管として石綿セメント管や普通铸铁管を使用してきたこともあり、千葉県平成15年度末現在の老朽管（石綿セメント管及び普通铸铁管）については、残存延長が約2,248kmで全国第4位、残存率が8.8%で全国第18位となっています。これらの管は耐震性が低いことから、昭和40年代後半以降、ダクタイル铸铁管等への布設替えが進められており、平成32年度までに約1,007kmが更新される予定です。しかし、依然として残る約1,241kmについては更新の予定が立てられていない状況となっています【表-3、グラフ-6】。災害対策等の面から早期に老朽管を更新していくことが重要な課題となっています。

県内の水道施設の稼働時期を見ると水道事業の40施設のうち14施設が昭和30年代以前に、22施設が昭和40年代又は昭和50年代に整備され、水道用水供給事業の9施設のうち5施設は、昭和50年代に整備されています。

施設能力で見ても、水道事業の約86%の施設が昭和50年代以前に、水道用水供給事業の約81%の施設が昭和50年代に整備されたものです。これらの施設については、耐用年数から単純に考えると、20年後の平成30年代後半以降に次々と老朽化し更新が必要になるものと予想され、災害対策等の面からも今後、これらの施設をいかに計画的に順次更新していくかが重要な課題となります。【グラフ-7】

【表-3】 地域別に見た老朽管（石綿セメント管及び普通铸铁管）の残存状況

千葉県内の地域別に老朽管の残存延長と残存率を示しています。千葉県の老朽管残存延長は2,248kmとなっています。

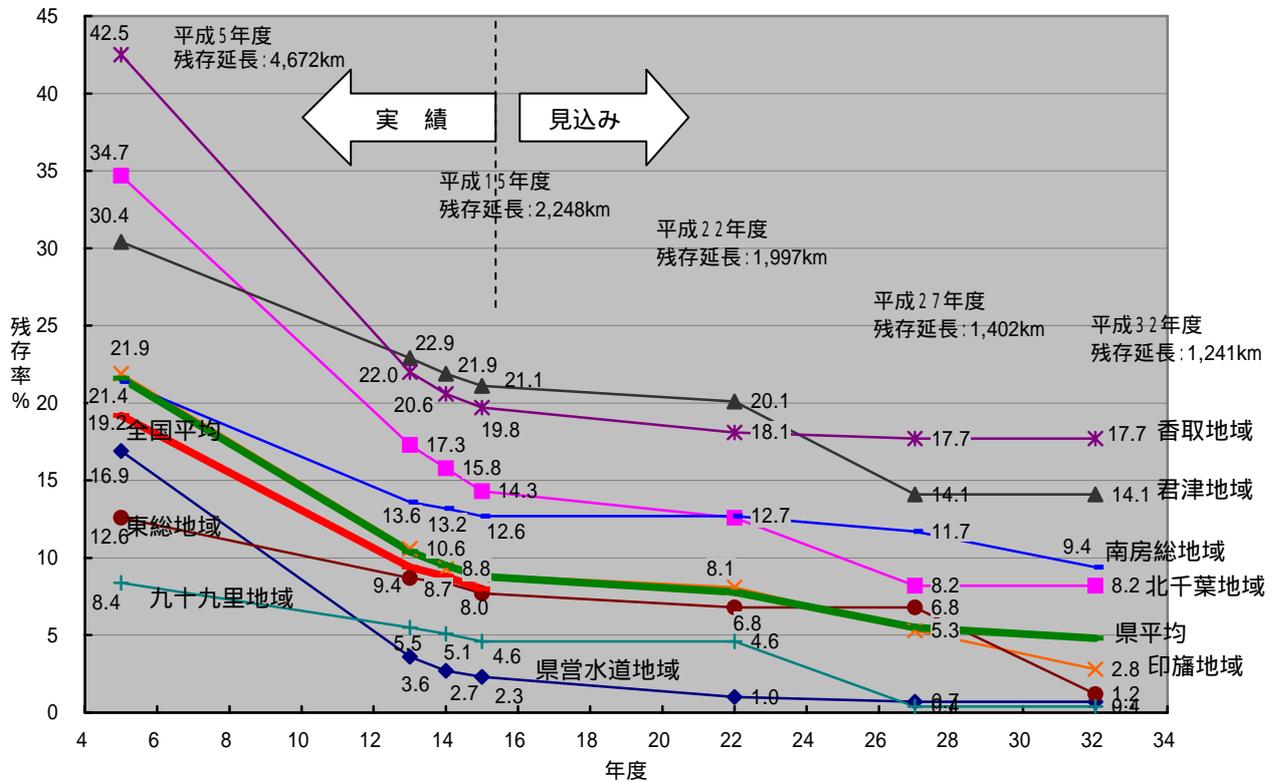
なお、石綿セメント管と普通铸铁管を老朽管とみなしています。

地域名	老朽管残存状況（平成15年度末）				
	老朽管の残存延長（km）			管路総延長 （km） （B）	残存率（%） （A/B）
	石綿セメント管	普通铸铁管	計（A）		
県営水道地域	136	70	206	9,114	2.3
北千葉地域	480	106	586	4,103	14.3
君津地域	562	12	574	2,715	21.1
印旛地域	167	15	182	2,055	8.9
香取地域	185	5	190	961	19.8
東総地域	83	1	84	1,088	7.7
九十九里地域	157	0	157	3,440	4.6
南房総地域	230	39	269	2,130	12.6
県計	2,000	248	2,248	25,605	8.8
全国計	18,692	26,648	45,340	568,210	8.0

\* 出典：「平成15年度水道統計（厚生労働省）」より作成。

【グラフ - 6】 地域別に見た老朽管の更新状況

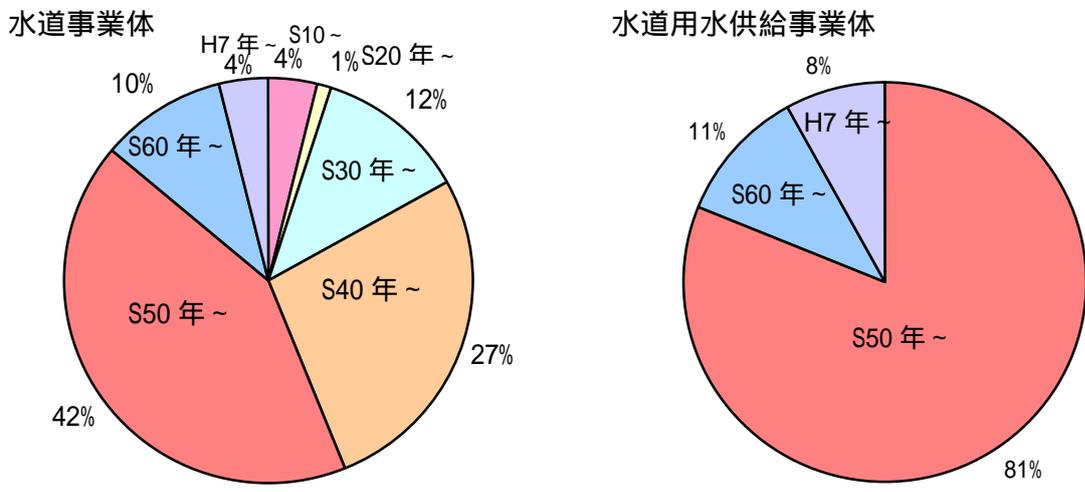
県内8地域毎の老朽管（石綿セメント管と普通鑄鉄管）のこれまでの残存率の推移と今後の更新の見込みを示しています。平成15年度における千葉県の実績は8.8%、全国平均は8.0%となっています。



\* 出典：実績（平成15年度まで）は「水道統計（厚生労働省）」より。今後の見込み（平成16年度以降）は「事業者アンケート」結果より。

【グラフ - 7】 水道事業体及び水道用水供給事業体の浄水場・配水場の稼働年代

県内の水道事業体及び水道用水供給事業体の浄水場・配水場の稼働年代を、県全体の施設能力に対する当該年代に稼働した施設の能力の割合で示しており、水道事業体では昭和40～50年代、水道用水供給事業体では昭和50年代に施設整備が集中していることがわかります。施設能力とは施設の1日当たりの給水能力（ $m^3/日$ ）を指します。



\* 出典：「平成14年度水道台帳」を基に作成。